

国立看護大学校で卒業式・修了式を開催しました

春の気配が感じられる3月19日、厚生労働省から樋口企画・検疫課長、国立健康危機管理研究機構（JIHS）から国土理事長がお越しになり、厚生労働省、JIHS、ナショナルセンター（NC）関係者等のご臨席のもと、卒業式・修了式が開催されました。

卒業証書、修了証書、学位記が、萱間大学校長から一人ひとりに手渡されました。

萱間大学校長は式辞の中で、本学の学修で培われた卒業生・修了生の高い資質に信頼を寄せ「私と卒業する学部生とは同じ年に大学校に来た同級生のようなもの。授業でコロナ禍で看護職のメンタルヘルスに起きていることとお話した。世界では本当に様々な出来事があり、共に不安を乗り越えてきた。これから生活が大きく変わり、ストレスマネジメントに悩む人もいると思う。何かひとつ実行可能で「できたから大丈夫だ」と思えるような生活習慣を見つけて欲しい」と述べました。

国土理事長からは、「皆さんは、JIHS発足後の初めての卒業生・修了生となる。JIHS及びNCは国民の健康を守り、医療の面から国民の安心と安全に寄与するという使命を持っている。卒業後、本校で培った能力や見識、国際的視野を十分に活かし、その力を発揮されることを願っている」との祝辞をいただきました。

卒業生答辞では、「入学前、世界では新型コロナウイルス感染症という未曾有の災禍に見舞われ、私たちの高校生活は耐え忍ぶことの多い日々であった。大学校での四年間がどのような日々になるのか当時は想像もつかず。友人関係を築くことが出来るのか、講義を普通に行うことが出来るのか等、憂慮していた」「入学当初、一部のオンライン授業やサークル活動の縮小など、制限のある学校生活を送っていたものの、対面での演習や臨地実習など、看護学生として学べる機会をたくさん設けていただき、大変有難く感じた」「このような晴れやかな日を迎えることが出来たのは、ひとえに皆様のおかげ」と自分たちの学修を支えてくれた方々への感謝の言葉が述べられました。

卒業生の多くは、JIHS及びNCで医療者としての道を歩み始めます。現場の皆さま方には、厳しくも温かなご指導を通じて、看護師・助産師としての成長を支援していただくようお願いいたします。



萱間大学校長式辞



国土理事長祝辞



卒業生答辞



修了生答辞